

「まあ、いまのひとは、なんて、ふしぎなひとでしょう。はじめから、そういつてくれば、こんなにびっくりしないのに。おしまいまで、ちっともくちを、きかないなんて、へんなひとなこと...」と、ひとりごとをいっているうちに、ふうせんは、てつのおしろのなかの、ひろいおにわのまんなかへ、ふんわりとおちました。ひめは、ほんとうにあんしんして、そこにしいてある、しろいすなのうえにおりましたが、ふうせんは、そのままちいさくたたんで、ぽけっとにしまっておきました。そのうちに、ひめのまわりには、てつのおしろの、てつのもろいをきた、へいたいさんが、たくさんにあつまりましたが、ふしぎにも、ひとりも、くちをきくものが、ありません。だまって、ひめをつれて、おうさまのまえに、つれていかれました。おうさまと、おきさきさまは、てつのおしろのなかの、お

おきな、おおきな、てつのへやのなかの、た
かい、たかい、てつのだいのうえに、まっく
ろなきものをきて、てつのかんむりをかむっ
て、てつのいすに、すわっておりましたが、
そのへやじゅうのものは、てつのかべも、て
つのゆかも、てつのはしらも、てつのでんじ
ょうも、それから、いっぱい、ならんでい